

嵯峨谷の未来を見据えて

嵯峨谷「縁」の会代表 よしだこうへい 吉田耕平さん

人と人とのつながり「縁」

嵯峨谷は若者の流出が進み、このままいくと5年後、10年後には廃村の危機になるだろうということで、3年前から橋本市に相談していました。さまざまな検討を進める中で、今年、総務省の支援事業が採択され、今回のプロジェクトを進めることになりました。嵯峨谷「縁」の会には集落内の全世帯が加入し、地域全体が一つになり、人と人との「縁」を大切に、課題を乗り越えていこうと取り組んでいます。

嵯峨谷の良い所を伝えたい

この事業では大阪芸術大学と連携を密にし、学生からは、おもしろい提案をたくさんもらっています。その一つに、高野口山村体験交流促進センターの舞台付近を「こどもの国」として改修し、砂場や積み木、その場でバーベキューができる道具などを入れる器を設置する計画があり、楽しいものができるかと期待しています。これができればお子さん連れの家族などで当地がにぎわいますし、将来的に移住も進んでいくのではと思っています。この事業を通じ、嵯峨谷の良さを自分も再認識するとともに、皆さんにもお伝えしていきたいと思っています。



▶ 覚書締結の様子

地域存続に向け本格始動
嵯峨谷には、高齢化に伴う農業や地域活動の担い手不足、伝統行事の衰退などさまざまな課題があります。これらの課題解決に向けた「隠れ里『嵯峨谷』を未来へつなぐ架け橋プロジェクト」が、総務省の「過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業」に採択されました。
このプロジェクトは、地元団体である「嵯峨谷『縁』の会」、大阪芸術大学、市、県が連携して取組み、10月9日に覚書を締結しました。
大阪芸術大学の学生たちの若いアイデアで地域活性化を目指し、一年を通して移住推進に向けたさまざまな取り組みを行い、交流人口の拡大を図ります。

先進技術と関係人口で「嵯峨谷」を未来へつなぐ



プロジェクトの実施内容

伝統文化の継承



- 地域の伝統行事「嵯峨谷の神踊り」を学生との協働でデータ保存し、後世へ伝承します。
- 近隣の小学生や嵯峨谷サポーターズを対象に体験会を開催し、地域内外における「嵯峨谷の神踊り」の認知度向上を図ります。
- 老人クラブの協力を得て地域の史実を文書化し、地域内外の関係者に配布します。

移住交流の推進

- 子育て世代の交流人口を増やすため、自然環境を生かした親子参加型の体験メニューを実施します。
- 地域内外の交流を促進するため、特産品を提供するカフェスペースを設置するとともに、地域産品を活用した新商品を開発します。
- 空き家調査や、移住相談窓口の設置により移住を推進します。



関係人口創出による担い手の確保



- 体験イベントの参加者や、連携している大阪芸術大学の学生を中心に、地域の担い手となる嵯峨谷サポーターズを組織します。
- 大学との協働でドローンを活用したPR動画を作成し、嵯峨谷の魅力を発信します。
- 地域住民だけでは実施が困難になりつつある農作業や草刈りなどの共同作業を体験イベントとして実施します。

先進的技術を活用した安全・安心な生活の実現

- ドローンを農業に活用し、農薬散布などの作業負担の軽減を図り、集落営農を進めます。
- 災害発生時のライフライン確保のため、運搬用ドローンを整備し、操作者を育成します。
- 集落内の狭い道を地元住民の協働で補修し、高齢者も安心して圏内移動ができる環境を整えます。

